

2009 年度 9 月実施 金融窓口サービス技能検定

《模範解答》

・ 1 級 実技試験 金融商品コンサルティング業務 (2009 年 9 月 13 日実施)

配点は、公表しておりません。また、配点・試験の内容に関するお問合せには、お答えできません。

成績通知は 10 月 27 日の予定です。

厚生労働大臣指定試験機関 社団法人 金融財政事情研究会  
検定センター

<合格基準> 100 点満点で 70 点以上

(注) 記述式の解答例は一例であり、下記以外の解答につきましては、試験委員会で判断をします。

【第 1 問】

《問 1》

< >の解答例

基準価額とは、投資信託の時価を示す数値であり、ファンドの純資産総額(資産総額から負債総額を差し引いたもの)をファンドの口数で割ることにより求められる。

< >の解答例

投資信託では、一定期間ごとに決算を行って、その期間内の運用状況をまとめて情報開示している。この法定書類を運用報告書という。運用報告書は、原則としてファンドの決算終了後、投信会社によって作成され、販売会社を通じて投資家に配布される。

< >の解答例

(1) 運用実績(設定来の運用実績、基準価額の推移など)

(2) 当期の運用経過と今後の運用方針

(3) 費用の明細

《問 2》の解答例

当ファンドの運用方針は、日経平均をベンチマークとしたパッシブ運用ではなく、アクティブ運用、つまり、ポートフォリオ・マネジャーが、自分の投資判断に基づいてファンドの運用を行うものであり、運用成績が日経平均と連動することを目的とはしていない。また、日経平均は、日本の主要企業 225 社の株価平均を指数化したものであるのに対し、当ファンドは小型株を投資対象としており、その投資対象が日経平均構成銘柄とは異なる。これらの理由により、当ファンドの運用成績と日経平均とが異なる結果になったものと考えられる。

《問 3》

(適切といえるかどうか)

適切とはいえない。

(その理由)の解答例

法令は、顧客に対する断定的判断の提供等を禁止しているが、断定的判断とは、将来の不確実な事項について決めつけることであり、業者が顧客に対して意見やアドバイスを提供することが一律に禁止されるわけではない。Bとしては、意見やアドバイスを拒否するのではなく、Aに誤解を与えないよう自分の意見であることを断ったうえで、意見を述べたり、今後の見通しについて、たとえばリサーチアナリストの分析を紹介したり、将来の予測についてその根拠(前提条件)を明らかにしたうえでコメントしたり専門家の見解を提供したりすべきであった。

【第2問】

《問4》

答 1、2、3、4

《問5》の解答例

ファンドの形態および状況(ファンドの名称、外貨建ての場合の建て通貨、ファンドの性格)

解約する投資信託等の状況(直近の解約価額、個別元本、解約に係る費用・概算損益)

乗換えに係る費用(解約手数料または募集手数料、解約する受益証券等については、解約に係る課税関係、その他の費用)

《問6》の解答例

リスクの種類 為替変動リスク

その内容 外国株式に投資する投資信託では、外国為替相場の変動によって基準価額が変動する。

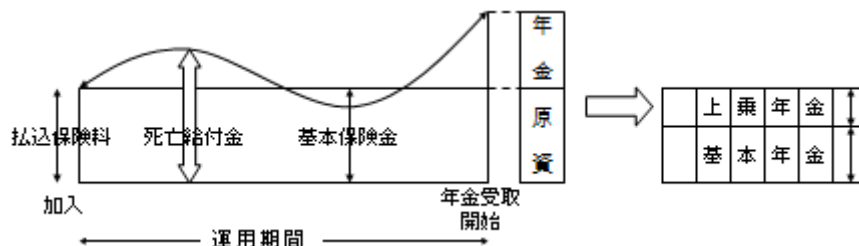
リスクの種類 カントリーリスク

その内容 外国株式に投資する投資信託では、投資対象国の信用リスクや政治リスク(政治的な理由で金融市場が強制的に閉鎖されてしまうなどのリスク)がある。

【第3問】

《問7》

(1)の解答例



( 2 ) の解答例

変額個人年金保険は、予定利率の定まった定額個人年金保険と異なり、払込保険料を特別勘定により運用し、その運用実績により利回りが変動して受取年金額(年金原資)や解約返戻金、死亡給付金変動する。

《問 8》

答 3

《問 9》

答 3

【第 4 問】

《問 10》の解答例

虚偽告知は禁止される。

断定的判断を提供してはならない。

適合性の原則に基づいた説明義務がある。

契約締結前・締結時交付書面の交付が必要である。

《問 11》

( 1 )

<計算過程>

$$100 \text{ 円} \times ( 1 + 0.01 ) = x \text{ 円} \times ( 1 + 0.05 )$$

$$x = 101 \div 1.05 = 96.1904 \dots \quad 96.19 \text{ 円}$$

<答> 96.19 円

( 2 ) の解答例

メリット；預入時に円建てでの利回りを確定させることができる。

デメリット；理論的には円利回りと同じとなり，外貨ベースでの高金利を享受できない。

《問 12》

( 1 )

<計算過程>

$$10,000 \text{ 円} \div 100 \text{ 円} = 100 \text{ ドル}$$

$$10,000 \text{ 円} \div 98 \text{ 円} = 102.0408 \text{ ドル} \dots \quad 102.04 \text{ ドル}$$

$$10,000 \text{ 円} \div 102 \text{ 円} = 98.0392 \text{ ドル} \dots \quad 98.04 \text{ ドル}$$

$$10,000 \text{ 円} \div 99 \text{ 円} = 101.0101 \text{ ドル} \dots \quad 101.01 \text{ ドル}$$

$$40,000 \text{ 円} \div ( 100 \text{ ドル} + 102.04 \text{ ドル} + 98.04 \text{ ドル} + 101.01 \text{ ドル} ) = 99.7282 \dots \quad 99.73 \text{ 円}$$

<答> 99.73 円

( 2 ) の解答例

ドル・コスト平均法を用いた場合，価格が安いときに多く，高いときに少なく購入できるため，一定数量を継続的に購入する場合に比べ，平均コストを引き下げる効果を期待できる。